

標 題 : Anticancer Effects of Nutraceuticals in the Mediterranean Diet:  
An Epigenetic Diet Model  
地中海食事中の栄養補給食品の抗がん作用 : エピジェネティック食事モデル

---

著 者 : R. Divella, et al. (イタリア ヨハネ・パウロ二世がん研究所バーリー IRCCS  
実験腫瘍学・バイオバンク管理部 施設バイオバンク)

---

掲 載 誌 : Cancer Genomics Proteomics. 2020 Jul-Aug; 17(4): 335-350.

---

要 旨 :

疫学研究および臨床研究が、結腸、乳腺、および前立腺のがんなど各種の悪性腫瘍の発生または進行と栄養との間の関連を裏付けており、これらの腫瘍を食事関連-がんと定義する。

地中海食事は、代謝性疾患、心臓血管系病変および各種のがんと逆相関を示す。

地中海食事の多くの生物活性栄養素が、この種の病変に対する予防因子として確認されている。

エピゲノムが、これらの分子栄養素に関連した遺伝子発現の変化の主要な目標として確認される。

実際に、それら(分子栄養素)はエピゲノムを修正でき、‘エピジェネティック食事’に取り入れられる、それは健康または予防の目的のために治療的に使用される食事療法に翻訳される。

大部分のエピジェネティック(遺伝子外)の変化は、生活様式および栄養によって影響される。

エピジェネティック療法は栄養補給食品の開発に関する新しい分野で、毒性のないそれ(栄養補給食品)はがん予防戦略で有効な資産と意味する。

栄養ゲノム情報科学のメカニズムの理解における最近の進歩で、遺伝子発現を良く調節できる超食品(スーパーフード)の確認に、栄養遺伝学および栄養補給食品は導く。

この総説で、腫瘍発症のメカニズムにおけるエピジェネティック(遺伝子外)の修飾因子および予防物質として、地中海食事に存在する栄養補給食品の重要性を、我々は強調する。

キーワード : 地中海食事、エピジェネティック(遺伝子外)、栄養補給食品、ニュートリゲノミクス(栄養ゲノム情報科学)、がん、総説

---